

## 熊本県（熊本市・宇城市・宇土市）の現地調査概要

- ・熊本県西部の有明海沿岸地域では、約 200 年前に島原半島の雲仙岳爆発・眉山崩壊により、「肥後迷惑」と呼ばれる大きな津波に襲われている。
- ・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集するため、熊本県熊本市、宇城市、宇土市で現地調査を実施した。

調査日：平成 26 年 10 月 20 日（月）～21 日（火）

調査地点：熊本県熊本市、宇城市、宇土市

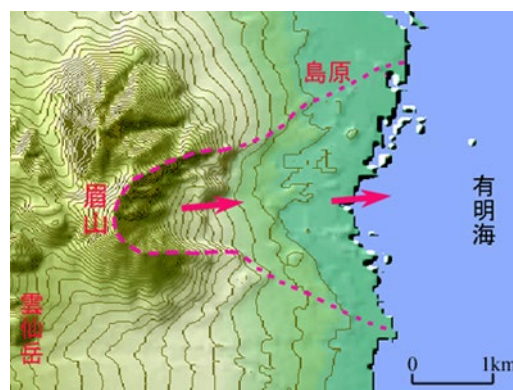


▲調査箇所図

出典：国土地理院

### 【寛政大津波の概要】

- ・寛政 4 年（1792 年）5 月 21 日夜、島原半島の雲仙岳が噴火した。噴火後、普賢岳を震源に M6.4 の地震が発生し、隣にある標高 700 メートルの眉山が崩壊した。
- ・崩壊時に約 3 億 4,000 万立方メートルに上る大量の土砂が島原城下を通過して有明海へと一気に流れ込み、波高 10～20m の大津波が発生。対岸の熊本（肥後）に大きな被害を与えたうえ、折り返した津波が再び島原を襲った。



▲雲仙岳・眉山の巨大崩壊位置図

出典：独立行政法人 防災科学技術研究所 HP

- ・津波による死者は有明海全域で約1万5千人に上る（うち、約3分の1が熊本側）。
- ・島原半島の土石流被害が「島原大変」、熊本の津波被害が「肥後迷惑」と呼ばれる有史以来日本最大の火山災害となった。
- ・熊本県側の津波の遡上高は熊本市の河内、塩屋、近津付近で15～20メートルに達し、宇城市三角町大田尾では22.5メートルに達した。

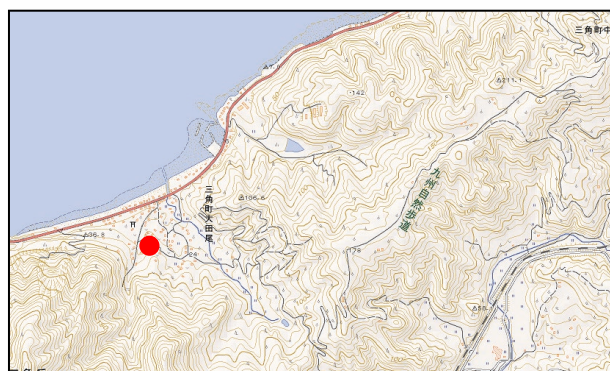
■島原大変肥後迷惑の被害内容一覧

地域	死者	負傷者	死牛馬	田畑荒	流失船	流失家	流失・損害蔵
島原領	10,139人	601人	469頭	379町6反3畝21歩	582艘	3,347軒	308棟
天草	343人	x人	65頭	171町4反6畝	67艘	725軒	2棟
肥後3郡	4,653人	811人	131頭	2,130町9反5畝9歩	約1,000艘	2,252軒	x棟

出典：宇佐美龍夫 2003、『最新版日本被害地震総覧』、東京大学出版会

【津波が標高 22.5 メートルまで到達：宇城市三角町大田尾 津波境石】

- ・寛政大津波の規模を示す「津波境石」が宇城市三角町大田尾集落の旧街道筋に建てられている。
- ・石碑には、「津波境 寛政四子四月朔日戌刻 山本二十七金助立之」と記されている。
- ・石碑の位置から、津波が標高 22.5 メートルの高さまで到達したと推定される。
- ・また、有明海までは200メートルほど離れており、眉山崩壊によって生じた津波が、対岸の熊本側に与えた被害の大きさを実感できる場所である。



▲津波境石の位置（宇城市三角町大田尾）



▲大田尾集落の「津波境石」



▲津波境石から有明海方面を望む



### 【大津波の教訓を伝える石碑：熊本市河内町船津】

- ・熊本市河内町（旧河内村、白浜村、船津村）でも寛政大津波により約500人が死亡したとされる。
- ・大津波の教訓を伝える石碑（市の指定有形文化財）は同町の船津巖島神社近くにあり、幅40センチ、高さ2メートルほどの角柱4面にわたり碑文が刻まれている。
- ・熊本県内には寛政大津波に関する多くの供養塔、墓碑などがあるが、「教訓碑」はこの碑のみである。
- ・碑文には「後世に同じような津波が襲ったときは、すべてに優先し、高齢者や幼児を連れて直ちに避難しなければならない。迷わないように普段から逃げ道を確認しておくべきだ」と記されている。（碑文解説：肥後金石研究会）



▲津波教訓碑の位置（熊本市河内町船津）



▲写真左端の石碑が津波教訓碑



▲津波教訓碑の全景（寛政7年乙卯10月の建立）



▲前面道路から見た位置  
（神社東参道入口にあったが道路改良で現在地に移設）



### 【津波で本堂が流出、イチョウの木だけが残った蓮光寺：熊本市河内町船津】

- ・熊本市河内町の蓮光寺は、本堂が寛政大津波で流され、甚大な被害を受けたが、境内の大イチョウだけが流されずに残った。
- ・蓮光寺山門横の供養碑（市の指定有形文化財）には、「寛政四年壬子四月朔日死者七六五人…」と刻まれ、船津村、河内村、白浜村、近津村の四か村の罹災死者人数が 765 人であったことが記録されている。



▲蓮光寺位置（熊本市河内町船津）



▲蓮光寺山門横に供養碑がある



▲津波供養塔の全景



▲津波来襲時に残った大イチョウの木



▲津波供養塔の碑文